

令和4年度 中央小学校 学校経営の方針

1 はじめに

今日、知識基盤社会の到来やグローバル化の進展、人工知能（AI）の急激な進化など、社会の様々な領域での激しい変化が加速度的に進んでおり、将来を予測することが困難な時代になっている。

このような中、一昨年度から全面実施となった現学習指導要領では、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性の涵養」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」、「生きて働く知識・技能の習得」が求められている。

本校に在籍する子供たちが、こうした新しい時代に必要となる資質・能力を身に付け、自分の未来を主体的に切り拓いていけるようにしていきたい。

そのためには、教育目標の達成をめざして、全ての教育活動に創意工夫を凝らすとともに、教職員一人一人の力を結集しながら、組織的・機動的な学校運営に取り組んでいくこと。教育活動の基盤となる学年・学級経営の充実を図ること、開かれた学校として保護者・地域・関係機関との連携を密にしていくことが重要である。

学校は子供にとって楽しく、一人一人に活躍する場が多くあり、魅力ある場所となるよう、また、子供たち一人一人が夢や希望をもち、自ら成長していくことができるよう、本校教職員としての誇りと使命感をもって職務に取り組んでいきたい。

2 教育課題

- (1) 自ら学び「確かな学力」を身に付けた子供の育成
- (2) 仲間を思いやり、主体的に判断して行動する子供の育成
- (3) 生活リズムを整え、自ら健康づくりに取り組む子供の育成

3 教育目標

自分の未来を主体的に切り拓いていく子供を育てる

- すすんで学ぶ子 ○ 思いやりのある子 ○ けんこうな子

4 努力目標

- (1) 学習習慣をしっかりと身に付け、意欲的に学ぶ子供に育てる。
- (2) 思いやりの心をもち、よく考えた行動ができる子供を育てる。
- (3) 健康や安全は自分で守り、生き生きと運動する子供を育てる。

5 めざす学校像

- (1) 安全・安心で、子供にとって魅力があり楽しいと言える学校
- (2) 子供の健やかな成長をめざし、工夫・改善を図りながら教育活動に取り組む学校
- (3) 保護者・地域に信頼され、ともに手を携えて子供を育てていく学校

6 めざす子供像

- (1) 学習習慣を身に付け、主体的で仲間とともに学ぶ子供
- (2) 約束やきまりを守り、思いやりのある行動をする子供
- (3) 自他の生命を大切に、自ら健康づくりにはげむ子供

7 めざす教師像

- (1) 子供一人一人のよさや可能性を見出し、よりよい変容をめざす人間性豊かな教師
- (2) 組織の一員として、他の教職員と協調・協力して職務に励む教師
- (3) 自己研鑽に励み、指導力の向上に努める教師
- (4) 教育公務員としての自覚をもち、子供・保護者・地域・同僚から信頼される教師

8 経営の基本的な方針

- (1) 教職員一人一人の力を結集し、全教職員で組織的・機動的な学校運営に取り組む。
- (2) 目的を明確にし、工夫・改善を図りながら教育活動に取り組む。
- (3) 子供と教師の信頼関係をもとに、教育活動の基盤となる学年・学級経営の充実を図る。
- (4) 保護者・地域・関係機関との連携を密にし、開かれた学校づくりをする。
- (5) 学校の施設・設備及び学校外の教育資源（施設、自然、人材等）を有効に活用する。
- (6) 教育活動を支える各種予算の計画的かつ適切な運用をしていく。

9 今年度の経営の重点

(1) 「確かな学力」の育成のために

- ① 「確かな学力向上プラン」をもとに、学年に応じて足並みを揃えた指導に努める。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりに取り組む。
- ③ ユニバーサルデザインの考えを取り入れ、子供一人一人が「わかった」「できた」などの学ぶことの喜びを味わえる授業づくりに努める。
- ④ 1人1台端末を有効に活用して、個別最適化な学びの実現に努める。
- ⑤ 授業における学習規律の定着を図るとともに、授業との関連をいかした家庭学習に意欲的に取り組む学習習慣を身に付けるよう指導に努める。

(2) 「豊かな心」の育成のために

- ① 「考え、議論する」道徳の授業づくりに取り組むとともに教育活動全体での道徳教育の充実を努める。
- ② 異学年交流や自分の役割を果たしたり、他の役に立ったりする活動に取り組ませ、自己肯定感・自己有用感の向上に努める。
- ③ 自分の目標に向かって自主的・主体的に取り組む態度や仲間と協働して物事に取り組むなどして人を思いやる心の育成に努める。

(3) 「健やかな体」の育成のために

- ① 「早寝・早起き・朝ご飯」を中心とした生活リズムが身に付くよう、家庭との連携を図りながら指導に努める。
- ② 体育の授業では十分な運動量を確保するとともに、運動することの楽しさを味わえるよう指導に努める。
- ③ 自分の目標に向かって「持久走」「縄跳び」に取り組ませ、体力の向上を図る。
- ④ 自他の生命を大切にするとともに、安全に行動する態度の育成に努める。

(4) 学年・学級経営の充実のために

- ① 学年主任を中心に、足並みをそろえた学年・学級経営に取り組む。
- ② 子供と子供、子供と教師が信頼し合える学級づくりに努める。

- ③ 子供のよさを積極的に認め、子供のよさを伸ばす指導に努める。
- ④ 一つのめあてに向かって取り組ませたり、子供が互いのがんばりや成果を認め合ったりしながら、学級の中での絆づくり、居場所づくりに努める。
- ⑤ いじめなど人としてしてはいけないことや集団生活に必要なルールの徹底を図る。

(5) 生徒指導の充実のために

- ① 6年生が全校児童のリーダーとしての自負をもって活動し、下学年からあこがられる存在となるよう全教職員で指導・支援をしていく。
- ② 生徒指導主任を中心に全教職員で情報を共有し、組織的で予防的・積極的な生徒指導に取り組む。
- ③ 挨拶や返事、言葉遣い、時間を守る、廊下歩行、名札を付ける等の基本的な生活習慣の定着に努める。
- ④ 問題行動やトラブル等が発生した際には、子供自身にその要因や解決策を考えさせるとともに、情報を共有し「迅速・的確・誠実」に対応していく。
- ⑤ スクールカウンセラーや関係機関等との積極的な連携を図り、協力を得ながら指導に努める。

(6) 特別支援教育の充実のために

- ① 子供の実態を踏まえた個別の指導計画・支援計画を作成し、見直しや修正を図りながら指導・支援の充実に努める。
- ② 特別支援コーディネーターを中心に、特別支援校内委員会（ケース会議）を随時開催し、全教職員で情報を共有しながら、全校体制で指導・支援をしていく。
- ③ 子供の困り感を的確に理解し、まなびの教室、保護者、外部機関との連携を図りながら、困り感の解消に努める。
- ④ 発達障害に対する理解を深め、二次障害の防止に努める。

(7) 研修の充実のために

- ① 研修主任を中心に、研究授業を通じた校内研究を組織的に推進する。
- ② 研究目標、研究仮説を明確にした授業研究に取り組み、子供の変容をめざした校内研究に努める。
- ③ 特別支援教育やICT等の今日的な課題に対応するための一般研修に取り組む。
- ④ 校外の研修会や研究会に積極的に参加し、校内での研修内容の共有に努める。

(8) 家庭・地域・関係機関との連携のために

- ① 子供の様子や教育活動の状況等を積極的に伝えるとともに、家庭や地域との情報交換を大切にし、ともに子供を育てていくという信頼関係づくりに努める。
- ② 必要に応じて積極的に関係機関と連携し、情報を共有しながら指導にいかしていく。
- ③ 幼保小中での情報共有に努め、子供の健やかな成長にいかしていく。

以 上